

飛騨市学園構想
SUPER COMMUNITY SCHOOL



49

みんなが育て みんなが育つ 魅力あるまち

◆地域にできることは？

ふるさと学習は地域と共にあります。地域の人口減少や高齢化がもたらす影響を知った宮川小学校の児童は、地域の宝である“飛騨みやがわ考古民俗館”が無人開館に踏み切ったことを知り、自分たちにできることは何かを探究しました。



地域と協働し、自分たちにできることを考えました

宮川再発見プロジェクト 地域×博物館×小学校の協働の学びがこどもまんなか社会を実現する

児童の願いに最大限応え、学びの伴走者として支えていくことが大人の役割です。児童は、学芸員や専門家、宮川町に住む大人と一緒に授業をして、考古・民俗について理解を深め、その良さの伝え方を学びました。そして、「来館者が楽しめる考古民俗館にしよう」を合言葉に、こどもガイドを行うことを決定しました。

それから児童は「実現可能性」と「持続可能性」の視点から活動を見直して検討を重ね、「クイズラリー完走者にオリジナルグッズを配布」、



こどもガイドとして地域の魅力を発信しました

「ガイドの二次元コード化」など自分たちにできることを考えました。このように探究して創り上げたこどもガイドは来館者にも大変好評でした。

◆総がかりでこどもを支える社会へ

地域がこどものために活動し、こどもが博物館のために活動し、そして、素晴らしい博物館が残されていく。三者の願いが相乗効果でこどもを育て、地域を育て、博物館を育てたのです。「こどもを育てる主体者」として社会総がかりでこどもを支えていく雰囲気のある宮川町は、こどもまんなか社会の実現に近づいています。

飛騨市立宮川小学校

情報発信

ホームページ

Facebook



問 学校教育課 ☎ 0577-73-7494



今月の

ゼロカーボン
アクション



太陽光発電で
クリーンなエコライフを

住宅用太陽光発電設備設置に関する専門員相談・補助金案内

市では脱炭素社会の実現に向け、住宅用太陽光発電設備の設置を検討されている方を対象に、専門員による相談対応を実施しています。設置費用の一部を補助する支援制度もありますので、「発電量や経済メリット」「導入にかかる費用」「設置の可能性」などについて、不安や疑問をお持ちの方はぜひご活用ください。

相談内容

- 太陽光発電設備の仕組みや導入メリット
 - 設置に適した住宅条件の確認
 - 市の補助金制度の案内
 - 申請手続きやスケジュールの説明
 - その他、導入に関する個別相談
- ※相談をご希望の方は事前にご連絡をお願いいたします

補助金の概要

補助対象者	市内に住所を有する個人
補助対象事業	市内の自ら居住する住宅への対象設備の設置
補助率等	①太陽光発電設備(上限額35万円) ②蓄電池(上限額25.8万円)
条件など	令和8年1月31日までに事業完了(予算上限に達し次第終了)

お問い合わせ・相談窓口

飛騨市 環境課 ☎ 0577-73-7482

住宅用太陽光発電設備の設置で削減できるCO₂排出量

919.8 kg-CO₂/世帯[※]

※ 環境省「削減ポテンシャル算定について」等より、3.5kWの太陽光パネルの設置を想定。

こんにちは 市民病院です

地域包括ケアシステムを支える
「面倒見の良い病院」を目指して
飛騨市民病院 地域連携室

「地域包括ケアシステム」とは、高齢者が要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう、医療・介護・福祉が連携し、支援体制を構築する仕組みです。その実現には、各専門職の協力が不可欠です。飛騨市民病院は、この仕組みの「医療」の部分を担当し、地域に根ざした包括的な医療とケアを提供しています。当院では「地域包括医療・ケア」を基本方針とし、医療・介護・福祉・保健・生活が一体となった支援を実践しています。

地域連携室では、地域の医療機関や在宅・介護施設と連携し、退院や転院、施設入所の調整、介護保険などの相談をスムーズに行う役割を担っています。その中でも特に力を入れているのが「入退院支援」です。

入院直後は、患者さんもお家族も治療や身体のことなどで頭がいっぱいになりがちです。また、退院後に「こんなはずじゃなかった」「今まで通りの生活ができない」と困ることがないように、入院中から準備をすすめることが大切です。退院後の生活を整えるには多くの調整が必要で、予想以上に時間がかかることもあります。そのため、早期からの介入が求められます。

患者さんの回復の過程は一人ひとり異なり、状況も日々変化します。円滑な退院支援には、患者さんやご家族との密なコミュニケーションが

不可欠です。さらに、主治医、理学療法士、社会福祉士、ケアマネジャー、訪問看護師や訪問診療医、介護事業所、介護施設、福祉相談員など多職種との連携が欠かせません。私たちは、退院後も安心してその人らしい生活を送ることができるよう、関係者が一丸となって支援や調整をしています。

また、入退院支援に加え、介護保険の手続き、他病院との連携、在宅医療・生活に関する相談など、幅広い支援を行っています。お困りの際は、お気軽にご相談ください。

飛騨市民病院は、地域包括ケアシステムを支える「面倒見の良い病院」として、市民の皆さんのお役に立てるよう尽力していきます。

問 飛騨市民病院
☎0578-82-1150



<その62> はじめませんか？

死生観と向き合う

昔からよく知っている身近な人や、マスメディア等でよく見る人が亡くなると、この世に生まれたからには、誰にでも間違いなく死が訪れることをあらためて思い知ります。

また、亡くなった後は一体どうなってしまうのだろうと、どなたも一度は考えたことがあると思います。ただ、確証のある答えはどこにもありません。ただ、死ぬ間際やそこに至るまでは、なるべく苦しまないようにしたい、この世に思い残すことのないようにしたいと考えながらも、

これもまた日常に流されてしまい、中途半端な思いをただ抱えているだけになってしまいます。

終活支援センターは、設立から7年目を迎えますが、これまでに300件程の相談を受けてきました。相談にみえる方々はどうなたも自分の終末をより良いものにするために、また遺族になるべく負担をかけないように、家族や親族の幸せを願って訪れます。

しかし、自分にはまだ終活は早いと考えている人の多くはやはりどこか『死』を他人事と捉えて、そのうね縁起が悪いものとして自分から遠ざけたいと思うようです。また中には「高齢」と言われることさえ忌み嫌う人もいます。

自分は元気であり、まだまだこの先もずっと人生を謳歌したいという気持ちは素晴らしく、大切にしてほしいと思いますが、その一方で誰も

が『死生観』をもつことも大事であると考えます。

死について考えることは決してネガティブなことではありませんし、死生観と終活は密接なつながりがあります。

生と死を意識して生きることで、自分の限られた時間をどう生きるのかが明確になると思います。

終活セミナー 『落語で人生の最終章を考える』

講師：介護亭 楽珍氏
(あのみ〜エンターテイメント代表)

5月31日(土) 13:30～15:00

ハートピア古川

申込・お問い合わせは下記まで

問 飛騨市終活支援センター
(飛騨市社会福祉協議会内)
☎0577-73-3214